

してずいぶん優しく接することができ、自分を発見し、驚いた……とのことである。

私は、自分の子ども(四歳と一歳)を夫の母親に日中養育してもらって仕事に出ているが、この記事を読んで考えさせられたことが多かった。

昨今は、夫婦共働きの家庭が多いが、家庭での子どもの教育についてもっと真剣に考えなければならぬ、と私自身強く反省させられた。日頃父親も母親も家にはいない家庭で育つ子どもたちは、どういう子どもに成長していくのだろうか。

仕事をするからには責任を果たし、やるべきことは中途半端で終わらせたくないのです、またまた考えさせられるのである。

私は教職経験が浅く、未熟な点も多いと思っているが、ある意味では教員になってもう十年も経つのだが、それなりの仕事をしなければ恥ずかしいと思う。しかし、まだまだ中身も仕事も思うようにはできていない。学校でも家庭でも、時間に追い立てられて十年になろうとしているが(二人の子どもを出産・育児のため、二年半は休暇、今までに、出産・育児のために仕事を休まなければならぬ事態になる度に、仕事と家庭の両立や育児について考えさせられた。

女性の場合、真剣に仕事に専念できるのは、子どもが大きくなってからであろうか。しかし、若いがゆえに吸収できることも多いはずだ。もっと多くのことを吸収し、自分を高めるといふ気持ちはいつまでも持ち続けていきたい。

子どもについては、やさしさ、誠実さ、責任感、強い意志を持った人

自安我楽

猪狩 和雄

ナーハハーモホホホー

モホホーホイメーエー

オセーオセ

盆では米の飯 おつけでば茄子汁

十六ささげのよごしはどうだ

オセーオセ

独特の節回しで始まるのは、いわき地方に古くから伝わる郷土芸能、じゃんがら念仏踊である。安土桃山時代に磐城国出身の学僧袋中上人が創始し、江戸時代に名僧祐天上人が広めたと伝えられている。

この伝統ある念仏踊を一度はやってみたいと思っていたが、三年前に

間に成長していつてほしいと念じている。日頃一緒にいてやれないのに、期待することは大きいのである。今後の子育てに多くの不安と期待を抱くことも多いが、今日の一日を大切に教育に専念することはもとより、家庭教育にも目を向けて前進していきたいと思う。

(白沢村立白沢中学校教諭)



友人の紹介で御厩地区じゃんがら保存会に入会することができた。

早速、練習に入ったが、私が覚えなければならぬのは先程紹介した唄と鉦、そして踊である。先輩の後について、目と耳と体全体で覚えなければならぬ。初めてのことを体験する緊張感と、教える立場から教わる立場になったことが、何か新鮮な気分である。

踊の場面によって、鉦のリズムに微妙な違いがある。太鼓を打つ人の身ぶりで鉦の音を止めたり、また打ったりする。まさに、目と耳と体で覚えるしかない。何度もくり返し、

何度も間違える。会長からビデオを借り、自宅に帰ってから茶わんと箸で練習。毎日毎日の練習で、鉦を持つ手、ばちを持つ手にまめができる。さすがに伝統芸能、そう簡単には近づけてはくれない。これでもか、これでもかと試練を与えてくれる。こうして、仲間との練習、家での練習が一カ月あまり続く。何とかものになってきたときには、両手のまめはたこに変わっていた。

八月十三日、十四日は新盆の家々を回る。夏らしい伝承衣装、独特な踊に太鼓と鉦のひびき。地区によってリズムや動作が多少違うが、それぞれの地区の伝承をかたく守っている。

御厩地区のじゃんがらはテンポが速く、サンバのリズムに近い。太鼓と鉦が調和し高潮したときには、踊る者も観る者も無我の境地に入る。一曲終わると汗びっしょり。これを一日に三十軒から四十軒の家でくり返すことになるが、どこの家でも心から喜んでくれ、仲間と一緒に何ともいえない充実感に浸ることができ。じゃんがらは、まさに読んで字の如く、自安我楽である。

次の目標は、太鼓をたたきながら舞うこと。地域に溶けこんで、仲間と共に頑張りたい。いわきの夏の風物詩「じゃんがら